

京都市生物多様性プラン（2021-2030）中間見直し案

プランが目指す将来像

- ・ 緑豊かな山々や、鴨川や桂川をはじめとする清流の恵みを受けながら、鮮やかに季節が移ろう京都は、自然と共生する暮らしの中で多様な文化を形成してきた
- ・ 京料理に用いる川魚やタケノコ、社寺の庭園の借景など、自然からの恵みは、衣食住をはじめとする私たちの暮らしを支え、その営みが、多様な生きものが息づく里地里山を形成してきた
- ・ 自然を慈しみ、自然に感謝し、自然と共に、京都の暮らし・文化・産業が継承・発展される「自然共生のまち・京都」を目指している



タケノコの収穫

現行プランの進捗状況

基盤となる取組に加え、認知・行動変容の促進に向けた施策を推進

認知の促進

- ・ プラン推進に係る活動交流会やきょうと☆いきものフェス！、企業向けセミナーの開催（交流会参加者：R6 179名、フェス参加者：R6 約1万人、セミナー参加者：R6 322名（計4回実施））
- ・ 市立小学校において自然観察会を支援する「地域生きもの探偵団」の推進（R6 13校 30回実施）
- ・ 民間企業等や環境学習施設との連携による環境学習の機会の創出（R5 192,495名参加）



地域生きもの探偵団

行動変容の促進

- ・ 民間企業と連携し、市民参加型の京都ゆかりの植物の育成活動を実施
- ・ 「きょうと生物多様性センター」における市民・事業者等のコーディネート（R6 85回）
- ・ 「きょうと生物多様性パートナーシップ協定制」による活動団体の支援（協定締結数（累計）：5件（R7.8時点））
- ・ 市が関わる取組や保全団体等へ自然共生サイト認定促進（R6 10件認定（累計））【**全市町村最多**】



きょうと生物多様性パートナーシップ協定締結式

基盤となる取組

- ・ 花脊地域におけるチマキザサの再生や東山等における生物多様性豊かな森づくりなど、多様な主体と協働した森里街川の保全活動の推進
- ・ 「京の生きもの・文化協働再生プロジェクト認定制度」による保全活動の推進（R6 482者認定（累計））
- ・ 特定外来生物をはじめとした侵略的外来生物の防除（クビアカツヤカミキリ、アルゼンチンアリ等）



自然共生サイト認定証授与式

進捗状況のまとめ

認定制度の推進や生物多様性センター設置、協定制の創設等、活動を支援する体制整備や実践の機会の創出を推進し、「積極的に活動している人」の掘起こしや後押しが進み、全体として「自然共生社会」の実現に向け、着実に進捗

表出してきた課題・国等の動向

認知の促進

興味のある人の認知は進んでいる一方、参加者が自然や生きものに興味がある層に偏っており、学生や観光客をはじめとした幅広い方々に浸透するまでには至っていない

要因

- ・ 「生物多様性のために活動している団体等」の紹介や交流する場づくりなど、「生物多様性」を主題とした情報発信や支援にとどまっている
- ・ 自然や生きものに触れる機会の減少により、子どもをはじめとした幅広い層の「原体験※」を得る機会が不足 ※自然の面白さ、不思議などを感じ、記憶に残るような体験

行動変容の促進

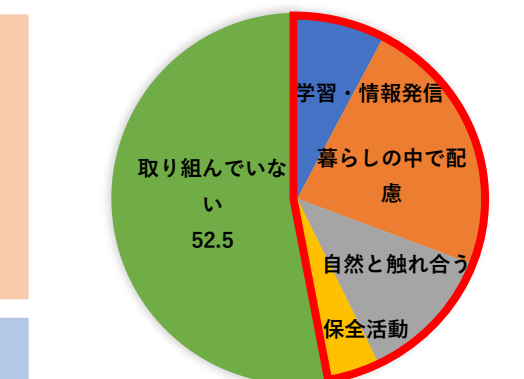
「積極的に活動している人」を支援する体制を強化してきたが、「生物多様性を守るために取り組んでいる人」が5割と「自然を身近に感じる機会がある人」の7割と大きく乖離があるだけでなく、減少傾向にあるなど、あらゆる方々が行動する状態には至っていない

要因

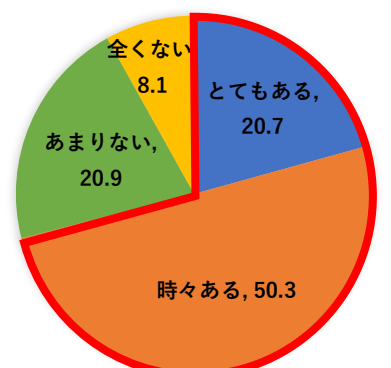
- ・ 積極的に活動している人の支援に偏っており、「認知し、行動したいものの、できない人」を後押しするきっかけづくりや、「行動する必要性を感じていない人」が気付く機会の創出が不足

自然的社会的条件の変化

- ・ 世界目標「昆明・モントリオール生物多様性枠組」の採択（R4.12）
- ・ 生物多様性国家戦略（2023-2030）の策定（R5.3）
- ・ 生物多様性増進活動促進法の施行（R7.4）
- ・ 新京都戦略、京都基本構想（仮称）、次期環境基本計画等の策定（R7）



生物多様性を守るために取り組んでいること[%]



自然を身近に感じる機会[%]

出典：令和6年度京都市環境基本計画市民アンケート調査

課題のまとめ

- ・ ①学生や観光客等をはじめとした幅広い層への認知促進や、②企業等の行動する状態に至っていない層へのきっかけの創出など現行プランの課題に対応するため、各行政分野との融合による施策の積上げが必要
- ・ 現行プランは世界目標や国家戦略等の基本的な考え方と一致しており、プランの構成や2030年度目標等、骨格部分は据置きとするが、国内外の新たな動向に係る情報の更新や本市上位計画等との整合が必要

課題解決に向けた取組

施策の積上げにより、以下取組を推進（主なものを抜粋。詳細は別添参考参照）

京都の魅力を知るファンを起点に、
更なるファンを増やす

認知の促進

- ・「生きものむすぶ・みんなのミュージアム」の構築 **新規**
 - ：市民・事業者・観光客などの参加により、京都の自然の素晴らしさを身近に感じ、発見し、愛着を深める仕掛けを創設し、新たな層を巻込む
- ・「きょうと☆いきものフェス」や企業向けセミナーの開催 **充実**
 - ：きょうと生物多様性センターによる、生物多様性に係るイベントやセミナーの開催により、幅広い層への情報発信や経営層への働き掛けを推進
- ・生物多様性の視点を持つガイドを養成する仕組みの創設 **充実**
 - ：養成講座やモデルツアーの実施により、生物多様性の視点を持った観光ガイドや観光事業者の拡大を促進
- ・「原体験」が得られる新たなプログラム開発の促進 **充実**
 - ：「生きものむすぶ・みんなのミュージアム」の活用やガイドの養成により、京都の豊かな自然をいかした観光コンテンツなど、「原体験」が得られるプログラム開発を促進
- ・「地域生きもの探偵団」の発展・横展開 **充実**
 - ：生きものに関心のある学校への個別周知や教員の自主研修会での周知、リピーター校専用枠の創設など、自然観察会を体験できる学校を拡大。また、事業対象を拡大し、町内会など地域の方々が自然に触れ、「原体験」を得る機会の創出を支援



企業のための生物多様性セミナー



企業緑地における和の花の活用事例（日新電機㈱）

行動変容の促進

- ・市内の企業等と連携し、京都ゆかりの植物の持続可能な供給 **新規**
 - ：当該植物の供給に関わる関係者と連携し、供給体制の構築に向けた現状や課題の確認、要因の分析、解決策の検討を行い、京都ゆかりの植物の持続可能な供給体制を構築
- ・生物多様性に配慮した緑化に係る優良事例集の作成・運用 **新規**
 - ：企業や公共工事等における生物多様性への配慮促進に向け、庁内関係部署や事業者と連携し、緑化に係る事例集を作成し、運用
- ・生物多様性に係る現状の継続的かつ効果的な把握 **充実**
 - ：研究者や保全団体等と協力し、市内の生物多様性の現状把握を進め、優先的に保全すべき地域・動植物の見える化等、行動を起こすきっかけをつくる
- ・公共調達・公共事業における配慮の具体化や森林・農地における生物多様性保全の枠組みづくり **充実**
 - ：環境保全型農業に取り組む農地において、農林水産業と環境の流域連携の取組を支援し、当該農産物のブランド化を図る
- ・生物多様性保全活動の支援体制の充実
 - ：「きょうと生物多様性センター」における市民・事業者等のコーディネートや「きょうと生物多様性パートナーシップ協定制度」による活動団体の支援

京都ゆかりの植物がある日常を
皆で支える仕組みを充実

行政分野の融合による
シナジー効果の発揮・同時解決へ



農業・環境の連携による農産物のブランド化の先進事例（豊岡市：コウノトリ育む農法）

出典：コウノトリ育むお米のひみつ
(https://www.city.toyooka.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_001/004/053/okomohenohimutsu.pdf) を加工して作成

上記認知・行動変容の促進により、以下基盤の取組を強化

基盤となる取組

- ・「推進プロジェクト」の更なる推進
 - ：「チマキザサ再生委員会」と協働した花脊地域におけるチマキザサの再生や「京都伝統文化の森推進協議会」と協働した東山等における生物多様性豊かな森づくりなど
- ・民間企業等と連携した生物多様性保全の推進
 - ：市民との協働による生物多様性に配慮した庭づくりや生息域外保全を行う希少種の苗の育成等、武田薬品工業(株)京都薬用植物園をはじめ、民間企業等と連携した取組の推進
- ・特定外来生物の防除・定着防止
 - ：市民や事業者、庁内関係部署等と協働したクビアカツヤカミキリやアルゼンチンアリ等の防除上記のほか、庁内関係部署・関係団体と協働し、基盤となる取組を推進



清水山における生物多様性豊かな森づくり

プランの評価指標

- ・生物多様性の状態を表す象徴的な生きものの生息状況（候補：チマキザサ、モリアオガエル、ツバメ、ゲンジボタル、アユ、カヤネズミ）
 - ：森・里・街・川の各エリアで多様な分類の象徴種をモニタリングし、実質的な生物多様性の向上を客観的に評価
- ・自然共生サイトの認定面積・件数
 - ：生物多様性の保全・再生や持続可能な利用ができている場所や取組が増えている状態を客観的に評価
- ・「京都の身近な自然環境が守られ、受け継がれている」と思う市民の割合
 - ：生物多様性の保全・再生や持続可能な利用の取組や、それを支える取組が拡大し、市民が体感できている状態を主観的に評価このほか、2030年度までの4つの目標ごとに設定した達成項目の進捗状況を把握する指標を設定



カヤネズミ